

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472700414		
法人名	桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん		
所在地	三重県多気郡多気町仁田ヲ山670-20		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村提出日	平成22年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472700414&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 12 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りや利用者のペースに合った生活をして頂けるよう取り組んでいます。一人ひとりの能力に沿った自立支援、希望等日々の生活に満足して頂けるよういつも心がけています。ボランティア(音楽療法、趣味サークル、保育園、高校生等)の慰問も多く来て頂き、普段とはまた違った空気を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな丘陵地、地元出身の職員が利用者も職員も家族であるという視点で、尊び、心から尽くす介護を理念に、利用者個々の存在と個性を認めた生活支援の展開を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの充実に向かって母体の医療法人を含め事業所としての理念を持って取り組んでいる。	管理者・職員は、法人の理念をよく理解し、更に「挨拶をする・言葉掛けに配慮する・気配り」を目標にし、日々の支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、近くにある施設の文化祭などへの参加、地域ボランティアや中学生の体験学習の受け入れ、地域のサークル活動への参加等、積極的に地域との交流を持つよう努力している。	地域の文化祭参加、ボランティアの導入、地域の中学生・大学生の社会体験実習を受け入れ、老人会への講師派遣等積極的に地域の活動に参画し、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の講習会など積極的に参加し、又、実習生の受け入れなどは積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場、社協、自治会、家庭から代表の方に出て頂き、おもに行事報告や今後取り組んでいきたい事について話し合い、色々な情報や助言を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議を精力的に開催し、単に地域に事業所の紹介をするだけでなく、介護相談や保険制度の説明・解説をするなど、地域社会・家族とともに考える会議を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	近隣に町役場があり、行き来する機会が多い。	管理者は、日頃から行政と交流があり、情報交換・指導にと、協力関係を築く交流を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体束縛は行わなわかないということをすべての職員が正しく認識しており、身体束縛のないケアを実践している。	身体拘束の弊害・デメリットを職員全体が十分に理解していて、事業所あげて拘束ゼロの支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	業務ミーティングやカンファレンスの時に不適切な介護について話し合い、問題がある場合は直ちに直直すようにし、虐待の防止を図るようにしている。又高齢者虐待防止のための事例集を回覧したり、対人援助技術のチェックシートを配布し自己反省をする機会をもうけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他ユニットの地域福祉権利擁護事業の支援を受けているかたを通して、社協の担当者から教えてもらうこともあります。必要に応じて制度の必要な方は活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際には充分時間をとって利用者や家族に説明し、理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事参加時等に職員から近況の報告をするなどのコミュニケーションをとり、色々な相談を受ける機会を作っている。家族からの意見等に関しては、職員ミーティング等で充分検討し、対応可能なものについては応じる様に支援している。	運営推進会議や面会時の面談等の機会に、積極的に家族の意向や意見を聴き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見や提案ができる雰囲気作りには気をつけている。	管理者は、職員が話しやすい職場環境を作ることで、意向や意見が表出し易く、表出された意見を大切に考えミーティング・会議等で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力、実績、評価を把握し向上心が持てるように言葉がけをし、昇給や給料に反映するなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けやすいよう環境作りには努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に交流は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、現在生活している所に面会に行くなどして本人の訴えや意向等を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学していただいたり、事前面談をしたりして御家族の困っていること、疑問、要望などを聞く機会を持ち安心していただけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、本人と家族の話を傾聴することで、一番の要望を見極め他のサービスも含めた出来る限りの情報を提供し、選択して頂くよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味や知識や得意な事を発揮できる場面を作ったり、家事も可能な限り一緒にやっていく事で職員は利用者から学ぶ気持ちと感謝を伝え、共に暮らす		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を行ったり、本人が希望することの実現について話し合い、協力をお願いするなどして共に利用者を支えていけるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人や知人にも訪問(来苑)していただいている。	地域・家族・友人の面会・馴染みの場所への買い物等、馴染みの関係を継続する支援に積極的に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や普段の様子を注意深く観察し、利用者同士がよい関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば随時対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、又適時に本人やご家族に暮らし方の希望、意向を聞き、支援している。自分の希望、意向を言葉で表現できない人には、寄り添い行動を観察するなどして、思いの把握に努めている。	管理者・職員は、利用者と良好な関係継続に配慮し、積極的に利用者の意向や意見を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前に受けていたサービス担当者から情報を得たり、入居後の利用者との会話から得たりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態等は、日誌、申し送りノート、ケア会議からの情報を得たり、担当職員からの聞き取りをするなどして現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の意見、要望をもとに職員や看護師と相談し、意見を出し合いながら利用者の視点に立った介護計画を作成している。	家族や利用者の意向・現在の状況を評価、ケア会議で検討し、計画の作成にあたっている。	計画の見直しを最低3カ月に1回行うこと、計画作成のためのモニタリングシステムの構築で利用者の状況・介護実践記録・職員の気づきを評価し、適切な介護計画がなされることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録、職員間の申し送りノートの記入、朝の申し送りをすることによって情報を共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、病院受診、地域の囲碁クラブへの参加など支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、保育園、中学生、高校生の体験学習、消防等との協力体制はできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人とご家族の意向を聞き、当グループホームへの往診又は通院ができるように支援している。	かかりつけ医、協力医と連携し、適切な医療が受けられる支援を実践している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体になっている病院と日常の健康管理についての相談、心身の変化や異常発生時の対応方法等について、指示や助言をもらえる体制ができており、適宜支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟看護師に利用者のグループホームでの日常生活の情報を提供することで安心して過ごしてもらい、入院中は出来る限り面会をするなど今の状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師を含めたチームでより良いケアの方針を共有し終末期、重度化への対応に取り組んでいる。	入所当初から、利用者の重度化や終末期の対応が話し合われている。医療と家族を含め情報が共有され適切な対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人ひとりの状態に応じて看護師から急変時の対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近辺に消防署があり避難訓練や消火訓練など行っている。(春・冬年二回の防災訓練を実施)	年2回の防災・避難訓練が実施されている。事業所の周辺が工場地帯で、地域ぐるみの防災は考えられにくいですが、近隣の消防署と連携し防災訓練が実施されている。	防災・避難訓練については、平日頃から防災意識を持ち、自主防災・夜間想定訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議等で不適切な介護や対応について、又個人情報の取り扱いについて慎重に行うように話し合っている。	言葉かけ・介護の在り方・気配りに配慮し、尊厳やプライバシー・自尊心を傷つけないように配慮した支援を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりする事を大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての一日の生活の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に合わせて、その日その時の過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、訪問美容に来て頂いているが、本人やご家族の希望がある場合は、自由にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から配膳、片付けまで出来る人には手伝って頂くようにしている。好みについても出来る範囲で対応している。	基本的には、職員・利用者全員で楽しめるように支援している。食事場所を庭園・公園で工夫をし、食事が楽しいと思われる工夫も取り入れた支援を実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを考慮しつつ、管理栄養士の指導を受けながら、栄養バランスに偏りがないように工夫している。水分量に関しては、一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助や声掛け、誘導等一人ひとりに応じた対応をしている。家族の希望を伺い歯科医師による口腔ケア、往診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	排泄の自立を目標に、排泄介助の場面で利用者の羞恥心・自尊心・プライバシーの侵害がないように細心の注意を払う支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に水分を多く取り、適度な運動をして頂いている。一人ひとりの排便リズムを把握しているので、変化があれば看護師の指示のもと対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に健康状態の確認ができており、入居者の希望に合わせ、くつろいだ入浴が出来る様に支援をしている。	入浴は個別入浴で、毎日でも利用できるようにしている。最低でも週3回の入浴がなされる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、生活のリズム作りを通した安眠策を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に確認出来るように、薬剤情報をファイリングし、薬が変わった時は看護師指示により職員が申し送りノートに記入する事で把握できるようにしている。服薬後の変化についても随時、看護師と情報交換をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、畑仕事、習字、囲碁等得意な分野で一人ひとりが力を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、畑作り等、外に出る機会を積極的に提供している。	地域との交流、馴染みの関係継続のためにも、日常的に外に出るよう支援している。遠出より負担のかからない近場、事業所周辺、庭園を利用して自然に触れる機会が多くなるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には、自己管理をして頂いたり、買い物の時には、自分で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかける支援、手紙の投函等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が生活感を自然に保てるように生活環境に配慮している。(家事の音、調理のにおい、季節の草花等)又、落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さなどに配慮している	広い共用空間と明るい日差しでのんびりゆったり感のある雰囲気ある空間である。適度な装飾と掲示物、季節感のある景色が望めるホールである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のコーナーがあり、各自思い思いに空間を利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	ベット・空調器が設置されている他は、個人の持ち物・調度品が配置され、清潔な住みよい空間として設営されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能の低下に合わせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある(滑り止めや要所への手すりの設置、浴槽、便座、流し台等の使い勝手の工夫、物干しの高さの調整、玄関での靴脱着時の椅子設置等。)		